

本番さながら救助活動

千葉・埼玉県警100人

八街で初の合同訓練

千葉、埼玉両県警の合同「社・大同産業」の敷地内で救出救助訓練が27日、八街行われた。被災地で連携し市八街の産業廃棄物処理会にて救出救助に当たる可能性

ドリルなどでコンクリートを破碎後、動かす訓練 27日、八街市



があることから、隣接県にある両県警が初めて合同訓練を開催。解現場から出たがれきの山などがある実際の災害現場に近い環境で、本番さながらに展開された。

参加したのは、千葉県警の警備課や機動隊、埼玉県警の機動隊など約100人。救出救助のエキスパーである警察庁の指定を受けた警視庁広域技能指導官2人が指導に当たった。



倒壊した電柱を破碎する訓練。ハンマーでたたいた後、中の鉄筋を切断した

午前中は技能向上を旨とし、コンクリートの破碎や倒壊した電柱の破碎、重量



パールなどの工具を使って重いコンクリートの塊を排除する参加者

物の移動などの訓練を実施。電柱の表面をハンマーで砕いて中の鉄筋をカッターで切断したり、重いU字溝の塊をパールやロープを活用して排除したりした。

午後の訓練は、市内を震源とする震度6強の地震が発生し、ビルの倒壊や土砂崩れが起きているとの想定で実施。穴に落ちた人を助けたり、行方不明の人を捜索したりする活動をてきぱきとした動作で行った。千葉県警本部警備課の前田恵司課長は「実践的な

訓練で経験を積むことができ、参加者の救助スキルの上につなげたのは、成果を本番の救助活動に役立てたい」と話していた。